

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団
2020 年度研究助成事業 個人研究助成 成果報告要旨

研究課題名	【計画延長課題（Web 会議報告は次回以降）】 Food protein induced enterocolitis syndrome 診断における血清 TARC 値の有用性に関する研究
フリガナ	ハマノ ショウ
代表者名	濱野 翔
所属機関（機関名） （役職名）	杏林大学医学部小児科学教室 任期助教
本助成金による発表論文，学会発表	なし

研究結果要約（中間報告）

当該研究は 2020 年 5 月に当院倫理審査委員会の承認を得て、臨床研究を開始した。しかしながら COVID-19 感染症流行の影響が強く、目標症例数が疾患群 18 例、対照群 18 例のところ、現時点で疾患群 5 例、対照群 6 例となっている。疾患群は病棟事情や保護者の判断により経口食物負荷試験を避ける傾向にあること、対照群は嘔吐を呈する疾患を含めた一般入院数が減少していることが目標症例数に到達していない要因と考えられる。COVID-19 感染症流行については今後の見通しが立たないため、現在のペースでの症例集積が続く可能性もあり、今後は協力施設を増やすことで症例集積のペースアップを図る。今後の見通しとしては、1 年 6 か月以内に目標症例数に到達し、TARC 値などの測定、測定結果の解析を行う予定である。